

小学3年国語 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

ねらい

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

学習展開（11時間）

- ① 学習のゴール「へんしんブック」を知り、学習の見通しを持つ。
- ② 「すがたをかえる大豆」の文章全体のつくりを知る。
- ③ 「中」の文のつくりを知る。
- ④ 「中」の順序の意味を考える。
- ⑤ 説明の仕方を確かめる。
- ⑥ 他の食べ物の「くふう」を見つける。
- ⑦ 「へんしんブック」で紹介する食べ物を決め、くふうとすがたをかえた食品を選ぶ。
- ⑧ 「くふう」について、わけをはっきりさせて並べかえ、どんな順序にしたか伝え合う。
- ⑨ ⑩ 「へんしんブック」を書き進める。
- ⑪ 完成した「へんしんブック」を読み合う。



②「すがたをかえる大豆」の文章構成について、相談しながら読み取る



⑧本を活用しながら、どんな順序がよいか話し合う

指導のポイント

- ・単元の導入では、児童の実態に合わせ、驚きや興味、意欲をより喚起できる食べ物を選び、「すがたをかえるいも」の作例を提示した。また、使用した本を1時目に紹介し、「書き方は教科書から」「情報は本から」というへんしんブックづくりの見通しを持たせた。
- ・学習のゴールは、お家の人にへんしんブックを読んでもらうこととし、書く目的や意図を明確にして取り組ませた。
- ・単元を通して、ペアやグループ、全体で交流する活動を設定し、自分で文章の構成を考えることができるようにした。

学校図書館との関わり

- ・単元導入前に、担任と学校司書による「いも」の絵本の読み聞かせを行った。
- ・学校司書と連携してへんしんブックづくりの資料となる本を選び、児童が活用しやすいように、数を絞って用意した。
- ・単元のスタートから本が手元にあり、児童が進んで本を活用し、指し示しながら友達に説明したり質問したりしていた。
- ・市立かわち図書館にも、児童のへんしんブックを展示していただき、自信となった。